

青森県東通村大利・尻労のテラ行事と念仏行事調査報告

古川 実¹⁾

The Report on the Tera-ritual and the Nembutsu invocation
at Ori and Shitsukari (Higashidori-village, Aomori prefecture)

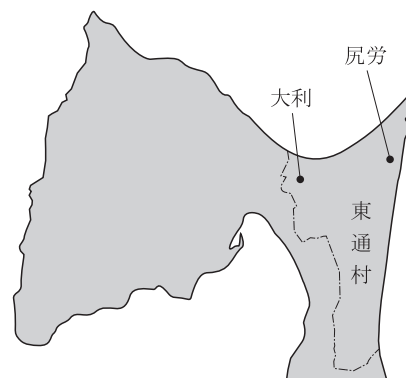
Minoru Kogawa

(キーワード：テラ ババ連中 念仏)

はじめに

筆者は前年度本研究紀要において、青森県下北地方における「テラ」、「テラこ」などと呼ばれる宗教的な施設とその場でムラの女性たちが行う諸行事などについて、青森県下北郡佐井村福浦を調査地にして報告した²⁾。このような習俗から下北地方における仏教民俗や、庶民生活の中での女性が果たしてきた宗教的な役割、あるいは女性たちの年序組織の特色などを把握し得るものと考えたからである。このような視点から、平成26年度も引き続き下北郡東通村大利、尻労におけるテラや女性たちの念仏行事について調査した。本報告はこの調査の中間まとめである。

東通村は下北半島の東北部に位置し、北端の尻屋崎を境に北は津軽海峡、東は太平洋に面し、南は上北郡六ヶ所村、西はむつ市に接する。集落は丘陵が続く内陸部の河川沿いと海岸部に形成されている。江戸時代は盛岡藩領田名部通に属した。



1 大利の念仏行事

(1) 大利の概況

東通村の北西部に位置し、むつ市に接する。江戸時代の史料では大利村と記され、明治22年(1889)の町村制施行により東通村に合併した。自治的な組織としての大利ムラはその後も連続し、現在も日常的に大利部落と呼んでおり、また、大字名としても大利が用いられている。江戸時代末の「邦内郷村志」に家数44、馬100、牛85とあり、明治初年の「新撰陸奥国誌」に戸数32、村況は「土地卑湿多く(筆者略)水田少し、農業の他余産なく、壮男は北海道に渡って傭作す」とある³⁾。昭和59年(1984)に東通村教育委員会が行った民俗調査では、実質世帯数34、太平洋戦争前には軍馬の生産、船材の供給、津軽海峡沿岸でのイワシ地引き網漁なども行ったという⁴⁾。現在は50世帯(東通村ホームページ 平成26年12月末現在の住民基本台帳人口)で農業、畜産を主とする。

産土神社は正徳元年(1711)の棟札がある白山神社であり、その堂には観音様(千手観音)も祀っており、田名部海辺三十三観音の二十五番札所となっている。明治の神仏分離のとき観音様を白山神社に移し祀った。なお、大利には寺院が無く、また大利が独自に設置する「テラ」も無い。むつ市の円通寺(曹洞宗)と常念寺(浄土宗)の檀家が多く、葬儀の際は各家で檀那寺から僧を呼んでいる。

(2) 女性たちの組織

テラの管理運営や念仏行事は、女性たちが組織的に執り行っている。下北地方では娘をメラシ、嫁をアネ、姑をババと呼び、家内での女性の役割に則してムラの女性の組織化がされている。

大利では、嫁はアネ連中に参加する。若嫁から40歳ぐらいまでの年齢層となるが、現在は人が少なくなり50歳ぐらいの人も参加しているという。小正月の行事として報道される青森県無形民俗文化財「東通の田植え・餅つき踊」の担い手たちである。アネ連中には長男、次三男の嫁の別はなく参加する。

主婦になると婦人会に所属する。姑になるとババ連中(祖母会)に参加することとなり、観音様の管理、巡礼者への対応、念仏、地蔵講、ヤメボイの行事などを行っている。大利集落の中心部に集会所「大利触れあいセンター」があり、ババ連中の集まりもこのセンターが利用されている。

1) 青森県立郷土館学芸課長 (〒030-0802 青森市本町二丁目8の14)

念仏行事や葬儀の手伝いは、大利全体の回り番で3軒1組の当番があり、ババ連中ではバンタチと呼んでいる。3軒の中の1軒が組頭のような役となるが、それは3軒の中で順になるように決めている。

(3) 念仏行事

地蔵講 毎月1回バンタチ（当番）の都合の良い日にセンターに集まり念仏を行っている。20日前後の日曜日になることが多い。今の人は仕事が多いから、なるべく人が集まる日に行くこととなった。地蔵講の日には、昔は各家から女が1人出ていて、50歳代が多かった。

各自が数珠と鉦を持ってきて、祭壇の前に置く大きい鉦を据える。ババ連中で管理する地蔵様の像があり、その像をセンターに持ってきて祭壇に祀り、あげものなどをする。像は木彫で高さ30～40センチほどのもので、ババ連中が月ごとに持ち回りで預かっている。昭和27年に亡くなった中島のおじいさんが、「ジンジョ様にも形がある」というので、ババ連中に寄付したものである。この地蔵は、不幸があれば喪家に持って行って祀られてもいる。

宮参り 白山神社は17日、20日が祭り日で、ババ連中が17日と20日に宮参りしている。17日は観音様、20日はオブスナ様の日で、以前はババ連中が拝殿に入って七観音の念仏をしたが、今は拝殿前に一同が揃い唱えている。冬の11月から3月は朝7時から、4月から10月は6時から行っている。

地蔵様の年取り 12月15日は地蔵様の年取りの日で、この日はセンターに集まり念仏をあげる。終わってから団子をお供える。

念仏の練習 毎年2月10日から7日間、9:30～14:00ごろまでセンターに集まり、念仏・御詠歌の練習をする。念仏、御詠歌は葬儀で必要になるものなので、年上の者が年下に教えるようにしている。

ヤメボイ 彼岸の3月21日から1週間、ヤメボイ（病追い）を彼岸の行事として行う。夕方に白山神社と集落のはずれのかどかどで、百万遍の大数珠を回す。そこでハタモノといって、ソバ、米、イモの粉で作った団子を一ヶ所5個くらいずつ撒く。撒いた団子をカラスが食べないと不幸があるという。最終日は団子ではなく、重箱に入れた赤飯を小さく分けて撒く。同じ経路を鉦を叩きながら歩き3回巡っていたが、最近はみんな高齢になり巡る回数が少なくなった。大数珠は昔はババ連中の倉に置いていたが、今は能舞を行う伝承館の倉庫に置いている。

かつてはノガミ様の日にも鉦を叩いて念仏をしていた。

葬 儀 以前は湯灌から葬式まで念仏、御詠歌をやった。各家では十三仏の掛け軸を持っており（最近は葬儀屋が用意する）、死人が出るとその掛け軸を死人を寝せた所に掛け、ババ連中が念仏を唱える。通夜は昼ごろに喪家にババ連中が集まり御詠歌を行う。

大利では、かつては死人が出ると各家10本の薪を家の前に出しておく決まりであった。それを関係者が集めて死体を焼いた。目名、上田屋ではワラを出したという。喪家の賄いはバンタチ3軒が買い出しや料理作りなどを行う。葬具、膳枕はババ連中の倉に用意していたが、現在は伝承館に置いている。

(4) 念仏・御詠歌（3 資料を参照）

念仏、御詠歌の文句や調子は、寺院から教わったものではなく昔から伝わっているもので、念仏に集まりながら習って覚えてきたものである。ババ頭とは呼ばないが、ババ連中の長老が先立ちになっている。念仏の他に大利では、大和流の御詠歌も歌っている。

念仏ではカイキョウゲを最初に唱える。その後イッシンチョウライ、地蔵様を唱え、終わりはシャリライとなる。焼く前のナマボトケ（死人）がいるときは「ジゾウソン」、通夜の晩と葬式では「十三仏」、葬式の晩には「オヤマワサン」を唱える。数珠ふきの念仏では、数珠などをババ連中に寄付した人の名前を入れて唱える。現在は大利とその隣の早掛平も数珠フキ（数珠回し）で回っているが、ムラごとに人の名前を変えて唱えている。

「湯坂下り」は恐山の三途の川に行くところを文句にしている。「ハタオリフメコ」は、地蔵、観音を追って来たことを歌う御詠歌で、これは前の代までやっていたが、現在はやれなくなった。

2 尻労のテラ及び念仏行事

(1) 尻労の概況

東通村のうち北東部に位置し太平洋に面している。北が尻屋、南は猿ヶ森である。かつては海岸の砂浜に集落があったが、津波により海岸段丘上に移動したという。漁港に行くためには急な崖を降りなければならない。江戸時代の史料には尻労、志利労と記され、現在「しつかり」「しっかり」などと呼ばれている。明治22年の市町村制施行により東通村に合併。前述の大利と同様に、江戸期からの自治的な組織としての尻労ムラは連続し、大字名としても尻労の地名が用いられている。江戸時代末に作成された「邦内郷村志」では家数38、馬61、牛162、漁船9。明治

初年の「新撰陸奥国誌」に戸数32、村況は「田畑究て少けれども土地に昆布、ふのり、干決明等ありて助産とし、又北海に出て傭役す」とある⁵⁾。昭和57年(1982)に東通村教育委員会が行った民俗調査では、戸数131戸⁶⁾。昭和4年(1929)北海道駒ヶ岳噴火のためイソヤケを生じ、漁撈の大部分をイカ漁に切り替えたという⁷⁾。現在は176世帯(東通村ホームページ 平成26年12月末現在の住民基本台帳人口)で漁業を主とする。

産土神社は宝永5年(1708)に再興したという八幡宮で、寺は元禄8年(1695)に開創されたむつ市常念寺末寺の池徳庵がある。

(2) テラ

尻労には、むつ市田名部の常念寺(浄土宗)末庵、池徳庵がある。普段はテラと呼んでいる。田名部海辺三十三観音巡礼の七番札所となっている。下北観光協議会が平成10年に設置した札所案内の解説によれば、常念寺の末庵に属しているが、宗派にこだわらない庵寺で本尊は阿弥陀如来、左側に如意輪観音を祀る。昔は寺が大きく観音堂も別にあったというが、寺から出火して焼失した。今のテラの建物は昭和47年(1972)に建て替えたものだという。住職もいたが20年ぐらい前に無住になった。

無住になってからは、ババ連中(婆々連中)が中心になってテラを管理しているが、尻労常会としても助成しており、テラでの集まりがあるときは、料理などの世話をする人を2ヶ月交替の当番でお願いし、3千円ずつ経費を出している。また、テラでの集まりがあるときは、有線放送を流している。ムラ全体への連絡は、昔はサングという係があり連絡していた。普段テラを施錠しているが、巡礼者などが来た場合は、平日は尻労部落事務所に連絡すると部落書記からババ連中に連絡があつて鍵を開けるようにしている。

尻労では浄土宗が40数軒、曹洞宗が65軒となる。葬儀には浄土宗は田名部の常念寺、曹洞宗は田名部の円通寺のベッケ(分家)にあたる東通村砂子又の円流寺から僧が来る。前述のようにテラの利用は浄土宗、曹洞宗の別はない。

テラ本堂の壁は、尻労を地区割りした班名を貼り紙し区画している。そこにフックを横一列に設けており、これに故人の名前と享年などを記した布袋や肩掛けのバックなどを掛けている。この袋などには故人の小遣い銭だといって、賽銭を入れている。賽銭は10月にババ連中が集めテラの運営資金とし、余れば常会に渡している。

昔は三十三日、四十九日が過ぎるまで、亡くなった人の着物も下げていた。「死ねばオヤマ(恐山、釜伏山)に行く」という。

(3) ババ連中

姑になればベッケ(分家)の別なくババ連中になり念仏に皆出たものだが、今は忙しくて行けない人もおり、念仏に集まるのは80歳すぎが中心である。ババ頭がいて、その人中心で切り回ししている。ババ連中の総会は1月に行い役員改選を行う。役員の任期は2年である。役員になるとテラやお墓のお水、供物の上げ下げなどを行っている。

(4) 念仏行事

毎月24日は地藏様の日で、テラに集まって10:30ごろから念仏を行う。この日は各家から必ず出ているわけではなく気持ちで来ているという。10~13人ぐらいが集まっている。

平成26年11月24日に行われた様子は、次のとおりである。10:40から始まり約1時間で終わる。最初に祭壇にお水を3つ、観音にも1つ供える。ババ連中会長が念仏の先導をする。「ナムアミ ナム」から始まり「イッシンチョウライ」でお勤めは終わりとなり、5種類の念仏を行う。その後は「十三仏」「オヤマワサン」などを唱えて終了する。途中、休憩が1回あるが、最後の方になると疲れて、間を入れながら唱える。終了後はカシキ(料理を作っている当番)が作ってくれた昼飯をいただく。

1年の念仏を行う行事は、春秋の彼岸に数珠フキをする。4月8日のお釈迦の日には、本堂の祭壇に大きい掛図を2点掛け、サンバオオライを唱える。10月は14、15日が十夜といって、餅をお供えにしてお経を唱えるお勤めをする。11月21日は観音様の年取りで念仏を唱える。

葬儀では、通夜のとき僧が来るまでと終わった後に、ババ連中が念仏と御詠歌を唱え数珠フキも行う。

(5) 念仏・御詠歌 (3 資料を参照)

念仏・御詠歌の文句や調子は、教えられて覚える。各自で書き留めたものを持っているが、先代の姑さんでテープに録音していた人もいた。ムラで設置するテラに集まり念仏をしているのは、東通村では入口、尻屋、尻労でおこなっているという。

「十三仏」は死んだ人が出たとき、掛図を下げて唱える。「花和讃」は子どもが亡くなったときに、「舟和讃」は海

で男が死んだときに唱えている。

3 資 料

念仏・御詠歌の文句や唱える調子を個人的にメモしたものをらせていただいたので、その内容を掲載する。表記は各人の任意のものであり、音声の強弱・長短を独自の記号で書き込んでいて煩雑なところがあるため、今回は、改行している部分を「／」で、長音と思われる部分を「ー」で、「ワ、ハ、オ、ヲ、ジ、ヂ」は現行通用の表記に改めた。

(1) 大利 「念仏の本」

○ カイキヨーゲ

ムジョージンシン／ミ／ミョーホー／ヒャクセンマン／ゴーナンソーダー／ガコンケンモン／トクジュジ／ガング
ニョライ／シンジツギ

○ シャリライ

イッシンチョーライ／マンドクエンマン／シャカニョライ／シンジンシャリ／ホンチホッシン／ホーカイトーバ／ガ
トーライキョー／イガゲンシン／ニューガガニュー／ブツガジコ／ガショーボダイ／イブツジンリキ／ノヤクシュ
ジョー／ホツボダイシン／シュボサツギョー／ドーニューエンジャク／ビョードーダイチ／コンジョーチョーライ
／ナムアーミーダーブー／ナムアーミーダーブーツ／ナムアーミーダーブーツ／ナムシャーカームーニ
ブーツ／ナムシャーカームーニブーツ／ナムシャーカームーニブーツ／ナムーヤーオーヤーマーノ／ジ
ゾーソーナー／タースーケーターマーエーヤ／ジゾーソーナーナム／アーミーンダーブー／ナムーアーミ
ダーブーツ／ナムーアーミダーブーツ／サーイーノーカーワラーノー／ジゾーサマー／タースーケーター
マーエーヤ／ジゾーソーナーナム／アーミーンダーブー／ナムーアーミダーブーツ／ナムーアー
ミダーブーツ／タースーケーターマーエーヤ／アーミダーサマー／アーミダーニョラーイーカー／
シャーカーニョラーイーナム／アーミダーブー／ナムーアーミダーブーツ／ナムーアーミダーブーツ

○ 十三ブツ

ナム十三ブツナムアミダ／タースケタマイヤ十三ブツ／アノヨノジョウドニウケタマイ／フドーシャーカムジーフ
ゲン／ジゾーミロクヤクシカンノン／セイシアーミダーハショク／ダイニチコオクジョー／オンジヨメンジョノソ
トキハ／オネブツイッペンモーサレーヨ／タダイマモーシオネブツハ／ウケトテタマワレ／アリガタヤナムダイス
カンゼオン（2回）／ミハココニ／ミハココニ／ココロハ／シナノノゼンコージニ／アミダ／ニョライカシャカニ
ョライ／タースケタマイヤアミダサマ／ナムヤダイスノカンゼオン／ナムーアーミダーブーツ／ナムーアー
ミダーブーツ／ナムーアーミダーブーツ／ナムジゾーソナー／リンソンジゴクノヨソナー／コンド
サンダイオダチヤロー／アカジキオリテニシミレバー／ムラサキクモハタダナミ／セイシカンノンカジトリテ／シャ
カサマハホネジメシ／ジゾーボサチハロカイオシ／ナマゲョー／ホケキョー／ホニカケテマカハンニヤノ／カゼフ
キシマンオークハヨソトミテ／ミダノジョードイチキタイヤ（2回）／セイシカンノンナムアミダー

○ 湯坂下リ 通夜のばん

キミョーチョーライ オソレザン／ユザカクダレバ ウミナリナム／イゲバホドナク アイモナシー／サンジガカワ
ノ ハシマデモナム／ハシノマンナカデ ヤマミレバー／レンゲノカタチニ サモニタリナム／ジゴクゴクラク カ
ヂアーレバエー／イザドマイレヤ チチノタメナム／ニドマイレヤ ハハノタメエー／ナムヤダイシノ カンゼ
オンナム

○ （ホトケサマノイタトキ）シンデノソン

キミウチョーライ シンデノソン／スネヤイチヤモー クヂヤナシナム／アマノイワドノ アマクダリー／ノセテ
サイワイ ゴクラクサナム／ハタトテガイヲ サシアゲテ／アマタノノベニ オクラレテナム／サキヲミテモ ツ
レモナシエー／アートミテモ ツレモナシナム／ツレニナルノハ カゲバカリ／チカラニナルノハ チイバカリナ
ム／ジゴクノジョーゾラ カタリシメーエー／ゴクラクシヨゾラ ソロリアケナム／センゾダイダイ マイルヨニ／
ナムヤダイシノ カンゼオンナム

○ オヤマワサン そう式のばん

ミルモハジメサンジガワノ／ハシトカヤ ハジメテワタルモー／アリガタヤ アリガタヤ／ナンブノオソレザン／マイハウミ ウシロノヤマハ ホーケキヨヤマ／ホトケノチカイ アラタナリケリ／ナムヤクシソコク ソメヨーノガンコメテ／マイルワガミヲ タシケマスマス／アリガタヤ タカノノヤマノイワカゲニ／ダイシハ イマモ オワシマス／マースー／クーカイノココロノ ウチニー／サクハナハ ミダヨリホカニ シルヒトハナシ

○ ハタオリフメコ

ゴクラクジョードノ マンナガデ／ハタオリフメコハ オリミサル／ジゾーボサチハ タチヨリテ／ナノハタオルヤト トイケレバ／ジゾーボサチノ ケサゴロモ／イチジョーオレヤ チチノタメ／ニジョーオレヤ ハハノタメ／サンジョーサンジャク オリオサメ／ジゾーボサチノ ケサゴロモ／ナムダイシノ カンゼオンナム

○※数珠フキの最後に唱える

ナム オンブキヤ ギサンノアカビタラ マニハンニヤ ハリハリタイノヅンバラ（繰り返し）

○ ジューヂフキ（大利の時）

ジューヂタイ ナーマイダ（繰り返し）／シクジゾー ゴクジゾー ロクジゾー ナーマイダ（繰り返し）／カジヤオジタメ ナーマイダ（繰り返し）／サンジロタメ ナーマイダ（繰り返し）／オリンコタメ ナーマイダ（繰り返し）／ネンコタメ ナーマイダ（繰り返し）／カヨキチタメ ナーマイダ（繰り返し）／トメギヂタメ ナーマイダ（繰り返し）／ウシマツタメ ナーマイダ（繰り返し）／ナミアミダブツ（繰り返し）／ニツマニユ（繰り返し）／ニツマセンゾカツコタイシマイニツ／オンコロ（繰り返し） センダラマントニソワカ

○ ジュウヂフキ（早掛平の時）

ジューヂタイ ナーマイダ（繰り返し）／シクジゾータイ ナーマイダ（繰り返し）／ゴクジゾータイ ナーマイダ／ナミアミダブツ（繰り返し）／ニツマニユ（繰り返し）／ニツマセンゾカツコタイシマイニツ／オンコロ（繰り返し） センダラマントニソワガ／トキタロータメ ナンマイダ

（2）尻労 念仏のメモ

○ ジュウサンブツ ミチビキワサン

キメオチョライ アリガタヤ／タマノミコシニ ミヲノセテ／ジュウサンブツニ ミチビカレー／フドーハ タイマツサキニタテ／サクワニコローハ シャカニョライ／チイノモンジュハ ハタヲタテ／フーゲンボサツハ ハナノヤク／ヂゾーボサツハ ミチシルベ／ミイロクヤクシハ ゼンノツナー／カンノンセイシハ ミコシヤク／テンガイサゲテ ミダニョライ／アシヨクニョライハ オンジキヲ／ダイニチニョライハ イハイモツ／コクゾーボサツニ テヲヒカレ／コンゴーチイノ チカラニテ／スデノヤマジヲ スヤスヤト／ロクドノミチモ マヨワジニー／サンジノカワモ ワタリコシ／ノリノハナサク ゴクラクノ／ジョードニツケリ アリガタヤ／ナムヤダイシノ カンゼンオン／ナムヤダイシノ ヘンゾーソナー

○ 十三仏

ナムジュサンブツ ナムアミダー／タースケタマイヤ ジュサンブツ／アノヨノ ジョウドイ ウケタマイ／フドー シャカ モンジュー フーゲン／ジイゾー ミロク ヤクシ カンノン／セイシ アミダ アッショク／ダイニチ コクゾーソナー／タダイマモウス オンネブツ／ウケトリタマワレ ナムアミダー／ナムアミダアブツ ナムアミダ／オンジョー レイジョノ ソノトキハ／タダイマモウス オンネブツ／ウケトリタマワレ ナムアミダ／ナムアミダブツ／ナムアミダ ミハココニ／ココロハシナノノ ゼンコージニ／アミダニョライカ シャカニョライ／シンジンネンブツ ナムアミダー （アミダデトメル）

○ フネワサン

キメオチョーライ イワフネノ／アミダニョライノ オメシブネ／ナカニマスマス シャカニョライ／セイシボサツハ ローノヤク／ガンノンボサツハ カジノヤク／ジゾーボサツハ アミノヤク／ハシラハ キンギンマルバシラ／ロクジノメオゴハ イカリヅナ／サンジノカワハ フネデトオル／ワシモノリタイ アノフネニ／ヒトアシカゲンデ ノリオクレ／ワレホド ジャケンナモノハナイ／タスケタマイト ヨブコイハ／タチマツ ミダノーオンフネ

ニ／コウメオ ヒカリデカガヤキテ／ゲオジャヲノセテ ゴクラクサ／ヒガシノミナトニ ツキタマウ／ネガウココ
ロハ アリガタヤ／ナムヤダイシノ ナムダイシ／ナムヤダイシノ ヘンゾーソン

○ アミダ

ナムインメイ ジゾーボサツ（5 ないし 7 回）／アーミーダーブーツ／ナムーアーミーダーブーツ／ナムーアー
ミーダーブー／ナムーシャーカーオーネンブツ（9 回）／ナムージゾーダーイボサツ（3 回）／ナムヤー
オジョーオージョヤブーツ（3 回）／ムインホーカイ ナムアミーダー（3 回）／キメオチョウライ クロタニノー
／インコダイシノ オオセニハー／ニゲン ワンジカ ゴジューネーナー／ハナトタトイラバ アサガオーノー／チ
ユノイノチヲ モチナガラ／ナゼニボダイヲ モチモサン／ワジカコノヨハ カリノヤドー／タモチゲツヤクチ
ヅレンゲン／ステノヤマジモ ターダヒトリ／ヒトリウマレテ ヒトリユークー／ナムヤダイシノ クワンゼーオン
（2 回）

○ オヤマノ ジゾーサマ

ナムヤ オヤマノ ジゾーサマヨエ／タスケタマイヤー ジゾーサマヨナーナム／ジガクダイシノー ニョライ
サマーエー／タスケタマイヤ ジゾーサマヨナーナム／カラダーセインノ ジゾーサマヨエ／タースーケータマイ
ヤ ジゾーサマヨナーナム／サイノカワラノ ジゾーサマーヨエ／タスケタマイヤ ジゾーサマヨナーナム／ハナ
トコーローハ テニモツター／テラーニーマイリター ハイヲースルーナム／コボレスナミダハ ソノテラ
ニー／チークーリシ チグサー□□トナル／アーミーダーブー／ナムーアーミーダーブーツ／ナムーアーミーダー
ブー／ネガワクハ コノクドクラ／モツテ アマネクイッサイニオヨボシ／ワレラト シュジョー ミナトモニ／ブ
ツドー ジョーゼンクトー

○ イソヤ

イソヤー タダコレー ユメノーモージョーエ／フタタビー シャーバーテモー アトモナーシー／サンガイミー
ナコレー ムジョウナリー／シーショウヒトリニー マネガレターナム／ゴダイベオリツー タマノーツューエ／
ロクドーノーミチャーハー ダビノソラーナム／シッチマンブノー シンソークノーエ／ハーチマンナナコノ タ
ネートーナルーナム／クホンノオケノー チカラーニーターナム／ジューマンオクドイー イータールベシーナ
ム／アーミーダーブー

○ ムネワサン

キメオーヤチョーライ ムネワサン／ムーネカーラオチルヤー タキーノーミズー／ツギーリシ ムシンダー
ヒートーモアルーエ／ジョーゴー トメータール イーシヤーモナイ／ナンボーフーフーノ ナーカダーターモー／
ショーガ カワーレーヤー オーソーロシイーナム／イチャー トメーレーヤー ノーバーマーデーモー／ノバマデー
オクリーシー ヒトモアルー／ノベカラーサキニー ヒトーリユークー／ヒートーリユークーミチャー カナーシー
サーニーナム／アートラー ミダーテモー ツレーモナシー／サキヤミダーターモー トモモナーシーナム／ツ
レーニーナルーノーハー ミノカーゲョー／チーカーラニーナルノハー ターケノツイーナム／トボーリトボーリ
ト ユターミチョー／ゴクラクジョードイー マイーリタイーナム／

アミダデトメル

ナムーアーミーダーヤブーツ

○ イツボンミチ

ミハココロニ ココロハシナノノゼンコージニ／タースケタマイヤ ニョライサーマー／タースケタマイヤ ニョラ
イサマ／タースケタマイヤ ホトケサマー／タースケタマイヤ ホトケサマ／ドーコデシンデモ チチノヤドー／
コーコデシンデモ チチノヤドー／ワカキトター ムコーヨ ハルカト オモルナヨ／ムジョーノカゼハ トキキ
ラヌ／ミチビキタマイヤ ミダノジョード／ナムアミダーブツ ナムアミダー／ナムアミダーブツ ナムアミダー／
イッペンモーセヤ イボンノミチヨモ／マヨワンジョウヤー ナームキメオチョライ ナムアミダ／二ヘンモーセ
ヤ ニホンノミチヨモ／マヨワンジョーヤー ナームキメオチョライ ナムアミダ／三ベンモーセヤ サンガク
ジョード／オーガムジョウヤ ナムキメオチョライ ナムアミダ／シヘンモーセヤ シホンノミチヨモ／マヨワン
ジョーヤ ナームキメオチョライ ナムアミダ／ゴヘンモーセヤ ゴクラクジョードイ／マイルジョーヤ ナムキ
メオチョライ ナムアミダ／ロッペンモーセヤ ロクドノミチヨモ／マヨワンジョーヤ ナムキメオチョライ ナム
アミダ／七ヘンモーセヤ シチマンニョライヲ／オーガムジョウヤ ナムキメオチョーライ ナムアミダ／八ヘン

モーセヤ ハチマンジゴクラ／ノガレルジョーヤー ナムキメオチョライ ナムアミダ／九ヘンモーセヤ クホンノ
ミチヨモ／マヨワンジョーヤ ナムキメオチョライ ナムアミダ／ジッペンモーセヤ ニシニハ オシャカハ／オタ
ヂヤラー ヒガシニ ニョライハ／オタチヤラー ホンテヲ ヒカレテ／チチノタメー ハハノタメー／ワガミノタ
メト テイコヲスル／アーミーダーブー ナームーアーミダーブツ／ナムーアーミダーブー

○ アサマヤマ

キメオチョーライー アーサーマーマー／ホーギーギョウ ハチークワン ミノーニシテ／ナムアミダーブツ／
ナムノーロクジバ カーサーニーシーテータム／ヒノーアメアフレドモ ダイージーナシーエナーム

○ アミダ

ナムーアーミダーブー／ノボルーオヤマニー ハナガーフルー／トーモニージョーブツ ナムアーミダーナム／
アミダーブー ナムーアーミダーブツ ナムーアーミダーブ

○ ゴクラクネンブツ

ワシモゴクラクー ミゾーノーソム／シャカニヒカレテー ゴクラークーサー／ナムーアーミダー／ミダー
ニョーライ／ナムヤ ダイーシーノークワンゼイオン (3回)

○ 十三ブツ

ナムジューサンブツ ナムアミダー／タースケタマイヤ ジューサンブツ／アノヨノジョーディ ウケタマイ／
フドー シャーカー モンジュー フーゲン／ジゾー ミーロク ヤークシクワンノン／セイシ アーミダ
アーツショク／ダイニチ コクゾーソナー／タダイマモース オンネンブツ／ウケトリタマワレ ナムアミダー／
ナムアミダーブツ ナムアミダー／ナムアミダー ナームアミダー／ミハココニ ココロハ シナーノノゼンコージ
ニ／アミダニョーライハ シャカニョーライ／シンジンネンブツ ナムアミダー／ナムアミダ ナムアミダーブ
ツ ナムアミダ

○ サンバオーライ

ナムホーシン シャカソーン ソーナムーホーシン シャカソン／サンバオーライ ハッセンメイ メイナムホーシ
ン シャーカーソン／コーセイークワンコーケイゲンド ドーナムホーシン シャカーソン／シンジュークーゲン
ムーセツセツ セイナムーホーシン シャカソン／ネケミソーコージンドー ドーナムホーシンシ／ソーボゲンジョ
ウー シフンジョー ジョーナムホーシン シャカソン／バチダイガワノー ニューネイハンナムーホー／シマコー
ジキ ジッコージョウ ナムホーシン／ニイヤクニーテイ ブーシャリ ナムホーシン／ユーゼイユーザイ フーベ
ツド ナムホーシン／ゴーヒアクダイ マンカイヨマンーマ ナムホーシン／ブツ ナムシャカー オーネンブツ
ナーナム シャカネンブツ／ナムージゾーダイボサツ ナーナムシャカ／ナムーヤ ダイスクワンゼオンナー ナ
ムーダイシークワンゼオン

○ イワフネワサン

キメオチョーライ イワフネノー／ジゾーボサツノー ハシノイケ／ミズハナクトモー フーネーハシルー／フネハ
シロガネ ロハコガネ／キンギン ホバシラ オスタテテ／ロクジノ メオゴー ホニアゲテ／カンオンボサツハ
カジノヤク／セイーシボサツハ ミナワヤク／ジゾーボサツハー サオノヤクー／アマタノホトケヲ ミナノセテ／
ゴクラクジョーディ スラスラト／ゴクラクジョーディノ オーモンハ／メオリノカギデハ ヘラカヌガー／ネンブツ
シュゲオデ オスヒラクー／ネンブツシュゲオハ アリガタヤ／ナムアミダブツ アミダブツ

○ 花ワサン

キメオチョーライ ハナワサン／ハナモ モミヂモ ヒトサカリ／ハナノヤウナル コラモッテ／チョウヨ ハナヨ
ト ソダテシニ／ムジョーノカゼニ サソワレテ／ハナモ シガタモ チリフセヌ／アトニノコリシ チチハハハ／
アマリワガコノ カワイサニ／ショコクノレイジョイ ココロザシ／テラノイレニテ コシヲカケ／ツボミノハナ
ノ チリヲミテ／オモイバ ワガコモ アノトオリ／ワガコノ カイラス アワレサヨ／タカシイ ヤシキ オスナ
ベテ／ナキコニ ヒカレテ テラマイリ／ワガミノゴショニ イチダイジ／ココロニカケテ シンジベシ／ハナワテ
ニトリ ワーフルシニ カイレドモ／ヒトハ ワカキニ カイルコトナシ

《注》

- 2) 古川実「青森県佐井村福浦のテラ行事調査報告」(『青森県立郷土館研究紀要 第38号』2014)
- 3) 青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌第3巻 みちのく双書第17集』(1965) 477頁
- 4) 東通村教育委員会『青森県下北郡東通村民俗調査報告書第2集 大利・石持・鹿橋』(1981) 1頁
- 5) 青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌第3巻 みちのく双書第17集』(1965) 494頁
- 6) 東通村教育委員会『青森県下北郡東通村民俗調査報告書第3集 尻労・野牛・岩屋』(1982) 5頁
- 7) 角川日本地名大辞典編纂委員会『角川日本地名大辞典 2 青森県』(1991) 439頁

(引用・参考文献)

- 青森県史編さん室 『青森県史 民俗編 資料下北』 2007
- 青森県文化財保護協会 『新撰陸奥国誌第3巻 みちのく双書第17集』 1965
- 角川日本地名大辞典編纂委員会 『角川日本地名大辞典 2 青森県』 1991
- 九学会連合下北調査委員会 『下北 自然・文化・社会』 1967
- 東通村 『東通村史 民俗・民俗芸能編』 1997
- 東通村教育委員会 『青森県下北郡東通村民俗調査報告書第2集 大利・石持・鹿橋』 1981
- 東通村教育委員会 『青森県下北郡東通村民俗調査報告書第3集 尻労・野牛・岩屋』 1982



写真1 念仏をメモし自家製本したもの(大利)



写真2 池徳庵(尻労)



写真3 念仏をするババ連中(尻労)



写真4 池徳庵の壁に掛けられている袋など(尻労)